



故きを温ねて、新しきを知る。『帯広葵学園のあしあと』

シンボルマークのこと

— 緑陽台認定こども園 — 学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

緑陽台認定こども園は、2015（平成27）年4月から音更町より運営委託を受けた町立保育園でした。よって、それまでは音更町立緑陽台保育園と言っていました。

委託を受けて2年後、つまり2027（平成29）年4月に保育園型認定こども園、2020（令和2）年4月には幼保連携型認定こども園として今日に至っています。その間、「ボイラーの耐用年数がはるかに超えている」「ガスの配管が劣化している」「トイレが詰まり汚水が溢れる」「事務室、職員室が狭い」等々、園舎老朽化の悩みを解決するため旧園舎を全面改築しています。

その園舎改築にあたっては、一つのエピソードがあります。それは当初帯広葵学園の考え方は、現在隣接地にある「あおいとりプラス緑陽台教室」を併設した新園舎づくりでした。音更町役場、十勝総合振興局との交渉経過記録も残っていますが、様々な理由から話し合いの結果は合意に至りませんでした。今でも残念に思っています。

さて、シンボルマークのことです。『緑陽台の頭文字Rをあたたかく包むハートでまとめ、自然の豊かさをR状の樹にとまる「青い鳥」で表現しマーク化』したこのマークをつくった奥野淳一先生は説明しています。ぜひ、このマークのままの緑陽台認定こども園でありたいものです。



幼保連携型認定こども園

緑陽台認定こども園

【シンボルマーク考案者】

奥野 淳一氏

1948年帯広市生まれ。帯広三条高、道教育大釧路校卒。十勝管内の小・中学校で勤務し、帯広第一中学校長で定年退職。つつじが丘幼稚園園長や市教委「心の教室」相談員を経て、2017年8月から帯広北高校を運営する帯広渡辺学園の理事を務めている。